



まだまだ寒い日もありますが、3月が近づくにつれて、朝の光にまぶしさや温かさが感じられるようになってきました。春はもうすぐそこまで来ています。

3月は「弥生」。弥生には「ますます生える。」「いよいよ生い茂る。」といった意味があり、草木がだんだんと芽吹く時期であることから「弥生」と呼ばれるようになったようです。

学校は年度末を迎えました。あと1か月でどの子どもが進級し、卒業していきます。新たなステージに備え、子供たちも今が「芽吹き」の時期で、やってくる春に備えて、それぞれの学年のまとめに励んでいます。

「背が伸びた。」「顔つきが変わった。」「はっきりと自分の考えを言うようになった。」「一人前の口をきくようになった。」「相手のことを考えられるようになった。」…。他にも、毎日是不変わらぬように感じていることでも、それぞれの子供に確実な成長が見られます。保護者の皆様から見ても、一年前の姿を思い返すと、お子様がずいぶんと変わってきたことに気付くのではないのでしょうか。他人との比較や、数値では測れない一人一人の成長をご家庭でもふりかえり、味わってください。そして、次の春に豊かな葉を育て、花を開かせるための「芽吹き」への蓄えを温かく包んでいただければと思います。残りわずかとなった「〇年生時代」をさらに充実したものにしてほしいと思います。

今年度もコロナウイルス感染症の影響で、通常のような学校生活を送ることはできませんでした。渦っ子全員がそろっての運動会や、学年全員がそろっての音楽会、思いっきり歌うこと、プールでの学習、楽しくおしゃべりしながらの給食など、今まで当たり前だと思っていたことができず、常に感染対策のことを考えながら過ごす日々でした。3学期になってからは、本校でも感染者や濃厚接触者が増え、学級閉鎖や学年閉鎖もありました。しかし、そんな中でも子供たちが毎日楽しく前向きに過ごす姿を見て、元気をもらってきました。「頑張ろう!」「負けへんで!」という気持ちになりました。今後もこのような状況が劇的に改善するのは難しいと思われます。感染対策を取りながら、子供たちがより成長できる術を模索して、子供たちと共に進んでいきたいと思ひます。

最後になりましたが、子供たちの毎日の生活を支えていただいた保護者の皆様、暑い日も寒い日も危険箇所に立っていただき登下校を見守ってくださった見守り隊の皆様、温かく子供たちを支えてくださった地域の皆様に感謝申し上げます。残り1か月も最後までお力をお貸しいただければ幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。

校長 多田 英彦